

L'aile d'Howl

【ライル・ドウル：ホウルの翼(伝語)】

2011年7月号



いよいよインターハイ間近！
開催地花巻では十分にハンド熱を
高めていますよ～!!

1

岩手県民大会で岩手県の元気さをアピール☆



7月2日～3日にかけて、花巻市総合体育館にて第63回岩手県民体育大会が開催されました。6月後半から続く暑さの中、成年男女と小学生の部が2日間の凝縮日程で行なわれました。さて、編集長も選手として出場した第1試合、花巻クラブ VS 不来方クラブの緒戦には、花巻クラブジュニアOBの森田啓亮選手(不来方高→早稲田大1年)と紺野龍磨選手(花巻北高→明治大1年)が花巻クラブのメンバーとして初登場。ジュニア→花巻北中で一緒にプレーしたコンビの活躍もあり、前半を14対15の1点差で折り返します。しかし残念ながら、後半は徐々に点差を離され、32対24で敗退となりました。結果は残念でしたが、普段と違うメンバーにはいいプレーもあり、非常に楽しい試合でした。また来年も学生メンバーが参加してくれることを期待したいと思います！

さて成年男子の部は、岩手教員クラブ、リトルハンド、柳家矢巾クラブ、そして不来方クラブがベスト4に進出。現役大学生で若さと元気を見せる柳家矢巾クラブはその勢いで決勝進出！対する不来方クラブは先輩の意地を見せられるか。決勝で合間見えた先輩・後輩チームの試合は、遠慮を全く感じさせない戦いで、最後に意地を見せた先輩の不来方クラブが1点差での勝利をゲット！東北クラブ選手権王者の貫禄を見せます！

一方女子の部は、不来方OGを集めた不来方クラブがどこまで勝ち進むか注目されましたが、貫禄に勝る白梅三英英会に準決勝で敗退。決勝は、富士大学と三英英会という恒例の顔あわせとなりました。ここでの勝負は、機動力に勝る富士大学が勝利を収め、見事7年連続7回目の優勝を決めました。



なお、この県民大会と並行して花巻市民体育館で開催されていた第48回東北地区高専体育大会のハンドボール競技の部では、予選Aリーグをトップ通過した一関高専が決勝で秋田高専を下し、見事8年連続24回目の優勝を飾りました！一関高専は、昨年の全国高専大会準優勝の強豪！今年こそは全国優勝を目指して、この勢いそのまま勝ち進んで欲しいと思います！

東日本大震災で未曾有のダメージを受けた岩手県ですが、県民大会の盛り上がりを見ていると、地震の被害さえ忘れてしまうほど頑張っている県民の姿をみることができ、これを是非全国に発信していきたいと思いました！
岩手は頑張っているぞ！

2

ドイツから嬉しい訪問者！植松選手ありがとう！！

ハンドボール発祥の地と云われるドイツのプロリーグ、ブンデスリーガで活躍する植松伸之介選手が花巻の地に！東日本大震災後、ドイツでのホームゲームの際に募金活動を展開し、今回その義援金を直接手渡しにわざわざ岩手までやってきてくれました。その義援金には、地元の小学生が作ったケーキの売上も含まれているそう。日本を



気遣うドイツの方々的心がこもった義援金は、県ハンドボール協会の小友副会長にしっかりと渡されました。
振り返ると、2005年に岩手県の高校選抜チームがドイツ遠征を行った際、当時植松選手が所属していたコンコルディア・デーリツチの試合を応援に行ったことがきっかけで、今回の縁が生まれたそうです。ハンドボールの絆は素晴らしいと改めて感じました。
さて、その植松選手ですが、当時の横浜商工高(現・横浜創学館高)のOBの皆さんと「チーム伸」を結成し、県内少年団との交流試合を行いました。全国大会常連高校のOBチームに対し、小学生チームは女子全員がゴールマウスに立つなど秘策を展開！これにはさすがのブンデスリーガもシュートを決められなかった！

試合終了後はお互いの健闘を称えあってハイタッチ！なごやかなムードの中交流試合はみんなに笑顔をもたらしました！試合後は植松選手のサイン入りチームポスターをいただいたり、前日に講習会を開いた山形県からのお土産としてさくらんぼをいただいたり、ハンドボールのみならずたくさんの喜びをもらって素敵な時間が過ぎていきました。この企画の実現に奔走してくださったスポーツコーディネータの堀美和子さん(写真中央)にも感謝です！



植松選手と
チーム伸の
皆さん
ありがとう！



ドイツの
皆さん
ありがとう！

3

小学生のハンド熱はすごい！！この夏もハンド教室は大人気

6月20日より開催中の花巻市小学生ハンドボール教室は大好評！毎回参加者が増え、指導スタッフも嬉しい悲鳴を上げているところですが、7月初旬時点での参加者は計83名！少年団に加入していないメンバーだけで約50名もきています。しかも、1年生が9名、2年生が6名、3年生が13名と、低学年の参加も増えています。



中には、少年団に入ると決めた子も何人かいるようです。このようにして、徐々にハンドボールの競技者底辺がどんどん拡大しつつあることを実感するばかりです。7月に入り、高学年の方はゲームを中心にやっています。どうしても経験者が衷心になってしまいがちですが、「シュートを決めた人がGKになる」や「チーム全員で得点する」など、特別ルールを設けてやると、意識的にボールを回すようになるようです。なかなかチーム全員得点は難しいようですが、ハンドボールの魅力は、GKも含め、どのポジションからもシュートを狙えること！その魅力を十分に引き出して、ハンドボールをもっと楽しんでほしいと思います。
さて、少年団の新メンバーはどのくらい増えるでしょう？お楽しみに・・・

L'aile d'Howl (ライル・ドウル)
2011年7月号
2011年7月25日 発行

発行：花巻市ハンドボール協会